

# 陣内正敬先生を偲んで

門田 修平

言語コミュニケーション文化研究科委員長

2001年4月に本学初の独立研究科として言語コミュニケーション文化研究科(言コミ)博士前期課程が開設されてから12年が経ちました。陣内先生と私の出会いは、実はこの言コミ開設時まで遡ります。言コミ開設と同時に、当時言コミ文化学会運営副委員長であった私は、ぜひ陣内先生にお話し頂きたい、先生に第1回言語コミュニケーション・フォーラムでご講演をお願い致しました。そして、2002年1月26日(土)に関西学院大学梅田ハブスクエア会議室(現・大阪梅田キャンパス)にて、計10件の院生による研究発表のあと、陣内正敬先生による『現代外来語事情』と題した講演が行われました。ちょうどこのフォーラムの開催と前後して出版された『カタカナ語・略語に強くなる本』(PHP新書)というご著書の内容をふまえた、非常にわかりやすく楽しい講演であったと記憶しております。その後、近くのイタリアンレストランで開かれた言コミ院生・教員との懇親会では、とても親しくお話しをさせていただいたのを覚えております。

その後言コミは、言語科学、言語文化学、言語教育学という当初の3プログラムから、2007年4月には日本語教育学を加えた4プログラムに拡充されました。陣内先生に正式に言コミに加わっていただいたのは、2009年4月でした。大学院教員としての任用と同時に、新たな日本語教育学プログラムの中心的存在として、博士前期課程および博士後期課程の指導教員をお願いすることができたのです。

陣内先生のゼミにおけるご指導は非常に熱心で、またさまざまな学生に多大な人気があり、結果的に多くの優秀な修了生を輩出されました。しかし、そのご指導も、わずか2年半で終結することになってしまいました。2011年夏以降、闘病生活を送られ、2012年10月6日にととうこの世を去られてしまったのです。世間一般からすると、まだまだこれからという58歳の若さで御逝去されたことが、陣内先生ご自身、極めて残念であったのではないかと推察致しております。

さて、このたび総合政策学部の高畑由起夫学部長、さらには本田盛先生をはじめとする先生方、さらには言コミの森本郁代先生等のご尽力で、故・陣内正敬先生の『総合政策研究・追悼記念号』が刊行され、その誌上に私達言コミ関係者も論文を投稿・掲載させていただけるというご厚情をいただき、心よりお礼申し上げます。言コミにおける陣内先生の足跡を偲びつつ、その学恩に報いるチャンスが与えられたことに深く感謝したいと思います。

最後になりますが、陣内先生におかれては、いつまでも言コミを見守り続けていただければと思っております。改めて陣内正敬先生のご冥福をお祈り申し上げます。

2013年9月1日